



J A U W

F U K U O K A

(一社) 大学女性協会
福岡支部会報
2022.6.30
発行

第 43 号

第 59 回福岡支部総会（書面）

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020 年度の福岡支部総会は、書面により行い 23 名の承認書を得て議事が承認可決されました。

2020 年度全国総会 第 9 回定時会員総会

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面表決となりました。

◆ 2020 年度の活動 ◆

アミカス「ZOOM 体験講座」

オンラインセミナー：zoom 講習（入門編・応用編）
講 師：見野 由美子（NPO 法人ドネルモ職員）
主催者：福岡市男女共同参画推進センターアミカス

日時：8 月 29 日（土）
（入門講座）10：00～11：30
（応用講座）14：00～15：30
会場：なみきスクエア（午前）
相良自宅（午後）
出席者：青沼、相良



新型コロナウイルス感染予防のため、対面で行われていた様々なイベントがオンライン化され、大学女性協会の会議もオンライン化されるようになりました。そのような中、Zoom 講習会のお知らせが、福岡市男女共同参画推進センターアミカスより参画ネット経由であり、青沼支部長と相良が参加しました。午前中の入門編は、福岡市無料公衆無線 LAN サービスが利用できる「なみきスクエア」の会議室で、午後の応用編は、相良の自宅で楽しく受講しました。参加者は、福岡市で活動する 16 グループでした。青沼支部長は熱心にメモを取っていらっしゃいました。

（相良かおる）

9月公開講演会

講演「新移民時代？」
講師：守山 恵子会員

日時：9月27日（日）13：30～15：30
会場：福岡市 NPO ボランティアセンター
あすみん
出席者：会員7名 他2名



コロナ禍ではありましたが、いづらか落ち着いていた2020年9月27日（日）14時～16時、ボランティアセンター「あすみん」4階会議室で久しぶりの福岡支部例会が開かれました。「新移民時代？」と題して、守山がお話をしました。10名ほどの参加でした。

最初に、ウォーミングアップ代わりに、日本語の読み書きが苦手な家族が自分が住んでいるアパートに暮らしていることをイメージし、どんな問題が起こりそうか、どんな助けができそうかなどを考えました。実際に外国にルーツのある方々との出会いの体験がないと、想像することもなかなか難しいのですが、私たちの誰もが早晚体験することになるだろうと思います。

2019年に、出入国管理及び難民認定法（入管法）が改正され、それまでの入管法の方針が大転換しました。特に、「人材を確保することが困難な状況にあるため外国人により不足する人材の確保を図るべき産業上の分野」の人手不足解消のため、コロナ禍でなければ、目に見えて在留外国人が増えるはずでした。技能実習生の制度はこれまでもありましたが、それは（実態は違っても）、名目はあくまでも技能を身につけて母国に帰り、母国に貢献する人材の育成でした。日本は生産年齢人口が減り続けており、外国人によって人手不足解消を目指すことになったというわけです。日本の生産年齢人口の減少をいづらかでも緩やかにするためです。それで、「移民時代が始まった」と言われるようになりました。

外国人が増えれば、それは大人だけではなく、子どもも増えます。子どもたちはあっという間に大きくなってしまいます。時を逃さず、適切な支援が必要です。子どもの日本語支援の必要性は、自治体、教育委員会、学校などにやっと少しずつ認知されるようになってきたところです。子どもたちがどのような支援が受けられるかは地域差が大きく、その解消も求められます。保護者の母語が日本語ではない場合、保護者は自信をもって母語で子育てをすることが重要ですが、「早く日本語を覚えるために、家でも日本語を使うべき」という間違った考えも根強いようです。

今、コロナ禍で、人材としての外国人入国は遅れています。でも、この機をとらえ、国が、自治体が、地域が、外国人と共に生活し、共に生きるためには何が必要か、どんな制度が欠かせないか、何を提供したらいいかを考えたいものです。



（守山恵子）

11月公開講演会

公開講演会（高取公民館と共催）
「地域における国際交流」
講師：高取公民館館長萩尾憲子氏
高取校区国際交流委員長田中英次氏

日時：11月22日（日）13:30～15:30
会場：早良市民センター
出席者：会員2名 他5名



高取校区における国際交流の取り組みを紹介しました。

平成7年福岡市において開催された「ユニバーシアード（学生のオリンピック）」を機に発足し、今年で27年目を迎えます。週2回の日本語学習と月1回の日本文化伝承を行っています。4月のお花見に始まり、ドンタク参加、生け花体験、山笠をめぐるウォークラリー、校区夏祭りでの舞台パフォーマンス、夜店出店、茶道体験、クリスマス交流会、餅つき、どんど焼き、着物の着付け等盛り沢山です。

活動の実施は、校区自治協議会からの資金援助にあります。（国際交流推進委員会は、自治協議会の団体のひとつです。）現在まで44か国、約2万人の外国の人がこの活動に参加しています。この中から、色々な国の絵本をその国のことばで読んでもらう「世界の絵本の読み聞かせ」が誕生し、校区の小中学生に国際感覚を自然に身に付けてもらう機会となっています。



国際交流は、まさに人権学習の基本です。目の色、肌の色、髪の色が違って、人はみな同じという基礎に立っています。相手を理解すれば争いは生まれません。争いからは、何も生まれないのです。国際交流の活動は、まさにその理念に基づいています。

「平和の種まき」それを目標に国際交流の活動は続きます。コロナ禍であって対面での学習がなかなかできませんでしたが、Zoomを活用したり、工夫をしながら活動が続いています。外国の人も校区住民の一人です。

アジアの玄関口福岡・・・その福岡で培った“つながり”をそれぞれの国に帰った時に、日本と自国との平和の架け橋になってほしい・・・そう願っています。世界平和を夢みながら、高取の国際交流は続きます。

（萩尾憲子）

COVID-19 感染拡大は、社会的弱者の存在を浮彫りにしました。これらには、外国にルーツをもつ女性や子どもが含まれます。

別の調査では、支援を要する外国籍の子どもの中核ある困難として、言葉・文化に係る問題が、次に母親DV被害を目撃したり直接虐待を受けたりする「家族問題」があり、これらの問題は子どもの自己肯定感の低さにつながると指摘しています。

福岡支部では、2020年9月、2021年11月に続き、2022年の公開講座でも外国にルーツを持つ女性や子どもをテーマにした活動を計画しています。



（相良かおる）

◆ 2021 年度の活動 ◆

第 60 回福岡支部総会（書面）

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2021 年度の福岡支部総会は、2021 年 5 月 18 日投函の書面により行いました。

1. 新支部長就任のお知らせ

2020 年 11 月からの青沼美撫子支部長の病気療養に伴い、守山恵子会員が 2021 年度の支部長をお引き受け下さいました。

2. 承認された議事

【報告事項】

- (1) 2020 年度事業報告
- (2) 2020 年度決算報告
- (3) 2020 年度会計監査報告

【審議事項】

- (1) 2021 年度事業計画（案）
- (2) 2021 年度予算（案）
- (3) 2021 年度役員

顧問： 和栗方子、加藤仁美、青沼美撫子

支部長： 守山恵子

会計： 桑原洋子、井上宏子

書記： 久保田千景

会報： 相良かおる

会計監査：西原そめ子

2021 年度全国総会 第 9 回定時会員総会

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面開催を避けて議案は議決権行使書による審議となりました。

9 月福岡支部役員会（オンライン）

寄稿：COVID-19 感染拡大に負けるな!! 役員会を
ZOOM で乗り切っています!

日時：9 月 26 日（土） 13：30～14：30
出席者：役員 5 名

例年であれば、福岡支部のあり方等、年間計画や振り返りの際には、対面での役員会を開催しておりましたが、昨今の社会情勢を鑑みて ZOOM 開催となりました。2021 年 9 月 26 日の役員会では、例会での西原そめ子会員による「福岡の仏跡を見直す」についての講演開催の報告、国内奨学生の選考に関すること、福岡支部の会報に関するについて会議を行いました。

次の役員会こそ COVID-19 感染状況が落ちつき、皆さんで対面できますように・・・という願いもむなしく対面は叶わず、再び ZOOM での役員会開催となりました。その 2022 年 1 月 30 日の役員会においては、「暴力追放福岡大会」参加報告、福岡支部のあり方等について会議を行いました。対面でなくとも ZOOM による役員との意見交換、思いを知ること、そして何より笑顔を見ることができ、ZOOM も悪くないなあと思いました。

早く COVID-19 感染が収まり、手と手を取り合うなど、いつか温かみを感じることのできる会が訪れますように・・・。

（久保田千景）

7月公開講演会

講演「福岡の仏跡を見直す」

講師：西原そめ子会員

日時：7月3日（土） 13：30～16：00

会場：福岡市早良市民センター

出席者：会員5名

西原さんは四半世紀に及ぶ巡拝で、20余りの霊場と1000あまりのお寺を訪れていらっしゃる。玄奘三蔵がたどった道、中国・韓国・シルクロード・インドも巡られたと伺いました。弟様を交通事故で亡くされたことをきっかけに58歳で車の免許を取られ、まず、御朱印の掛け軸を作られました。幼少の頃、おばあさまからお大師さん参りのお話をよく聞かされていたり、ご両親が香川県のご出身でいらしたりと、霊場巡りにゆかりが深かったとのことですが、霊場のガイド本など何冊もの本を上梓されたのは、40年働かせて頂いた社会への恩返しの気持ちだったと伺って感銘を受けました。

今回は、2020年に出版された『福岡の名刹・古刹 55カ寺』（海鳥社、2020）に取り上げられた仏跡を中心にお話してくださいました。そして、この日のお話が、11月の秋の一日ツアーにつながりました（「秋の一日ツアー報告」を参照ください）。みなさまもぜひ『福岡の名刹・古刹 55カ寺』をお読みになり、機会があれば名刹・古刹へお出かけください。

お話の最後に巡拝の効用として①健康増進、②心の平安（感謝の心）、③近隣相和、④娯楽、⑤達成感の充足を上げられました。西原さんにとっては①ストレス解消、②リハビリ効果、③心の平安（明るい解釈、腹を括る）、④感謝の心、④達成感と知的興味の充足だとおっしゃいました。

（守山恵子、桑原洋子）

暴力追放福岡大会

（第30回暴力追放福岡県民大会、第9回暴力追放福岡市民大会）

第1部 式典

日時：11月11日（木）14：00～15：30

第2部 特別講演「暴力団排除教室」

会場：なみきホール

講師：暴力団排除教育サポーター（暴排先生）

参加者：桑原会員

支部長代理で出席した暴力追放福岡大会は、第30回暴力追放福岡県民大会と第9回暴力追放福岡市民大会が初めて合同（県と市）で開催された大会でした。

一部では、福岡県知事 服部誠太郎さんと福岡市長 高島宗一郎さん及び福岡県警察本部長の野村護さんがそれぞれ挨拶された後、暴力追放運動推進協会副会長の小山毅さんが以下の通り大会宣言をされました。

暴力団の存在を絶対許さない決意のもと

- ①暴力団を利用しない
- ②暴力団を恐れない
- ③暴力団に金を出さない

プラス1（ワン）★暴力団と交際しない

とした「暴力団追放3無運動プラス1」で暴力のない安全・安心に生活できる福岡の町づくりに取り組む決意表明がなされました。

二部の特別講演では、暴排先生と呼ばれる暴力団排除教育サポーターによる「暴力団排除教

室」が開催され、暴力団追放「三ない運動プラスワン」を柱に、暴力団の存在を許さない市民運動を目指した暴力団排除活動として地域・職域への広報活動の紹介がありました。

その後、暴力追放運動功労者や暴力追放ポスターコンクール優秀者への表彰式があり、閉会となりました。

支部長さんの代理で、予備知識もないまま出席した暴追大会でしたが、テレビでしか見たことのなかった県知事さんや市長さん、県警本部長さんをご挨拶されるのを目のあたりにして、福岡県・福岡市・県警が一体となって取り組んでいる暴力追放運動の大会であるということが分かった次第です。

案内された私の席は、コンサートホールでいうとプレミアム席でしたので、なぜこんないい席なのだろうと座席表を確かめてみると、私の席は暴追協委員の枠に入っていました。大学女性協会福岡支部は、暴力追放運動推進協議会の一員になっているようです。

前方には、市議会議員・県議会議員、右手には、県警署長・県警随行者席。左手は、局長・区長席。後ろ全体は、自治協議会席。最後部には報道席がありました。

福岡県は、過去において殺人・襲撃事件が全国最多の「修羅の国」と呼ばれるほどだったようですが近年、警察、行政、事業者、県民の協力で犯罪や暴力団勢力が減少の傾向にあるようです。しかし、壊滅には、道半ばという状況で、さらなる「三ない運動プラス1」を推し進めていく決意を新たにされた大会でした。

(桑原洋子)

大学女性協会全国セミナー（オンライン）

教育・ジェンダー・共生
—— コロナ後の共生社会を支える教育 ——

基調講演：「多様なロールモデルの育成を目指して」
講師：西澤直子（東京支部会員、石川県立大学学長、
東京大学名誉教授、日本学士院会員）

日時：11月14日（日）10:00～16:30
参加者：守山恵子支部長

秋の一日ツアー

場所：雷神社・雷山千如寺
案内：西原そめ子会員

日時：11月24日（水）
出席：会員3名



福岡支部は西原そめ子会員を講師に、2021年11月24日（水）に秋の一日ツアーをいたしました。西原会員からは、7月の支部例会で「福岡の仏跡を見直す」と題してお話を伺っており、そのお話の中で取り上げられたところの中から、福岡県糸島市の雷神社と雷山千如寺大悲王院を訪れました。

雷神社は古代、神功皇后が朝鮮出兵の時に、戦勝祈願したと伝えられる歴史ある神社です。千如寺から徒歩で20分ほどの場所にありながら、訪れる人も大変少なく、ひっそりとしたたたずまいでした。まず目を引いたのは社殿の左側にあった樹齢1000年以上だというイチヨウの大木です。雨上がりの日の光を受けたイチヨウの葉の美しさは格別でした。拝殿はきれいに整えられており、境内は静寂に包まれていました。

お宮の駐車場で、お昼のために持参したお弁当を広げ、一休みしました。

坂道を車で少し下ると千如寺です。紅葉の季節でもあり駐車場は満杯、多くの参拝客でにぎわっていました。樹齢400年、福岡県天然記念樹の大楓はすでに落葉していましたが、庭園の紅葉は見事でした。千如寺は、178年にインドからの渡来僧、清賀上人の開創と伝えられ、神亀2年（725）に聖武天皇の勅願寺になったという古い歴史を持っています。明治初めに雷神社から分離しました。雷山観音こと本尊の木造の千手観音立像と開山の清賀上人座像は国の重要文化財です。残念ながら、清賀上人像は九州歴史資料館に出陳中で、写真パネルでの参観になりました。

参加者は和栗元支部長と私たちの3名と少なかったのですが、秋の一日、心洗われるとても贅沢なツアーとなりました。



（守山恵子）

参画ネット講演会

「政治の未来を米・仏から考える」

日時：12月5日（日）13:30～16:30

場所：アミカスホール

演者：ユキ・近藤・シャー氏

出席：会員4名

（在福岡アメリカ領事館広報担当領事福岡アメリカンセンター館長）

演者：フランク・ボルジアニ氏

（フランス政府公式機関アンスティチュ・フランセ九州 - 沖縄館長兼事務局長）



大学女性協会福岡支部もメンバーの「地域で男女共同参画を！～拡げようネットワーク」実行委員会（略称：参画ネット）主催の講演会が12月5日（日）13時30分～16時30分、アミカスホールを会場に開かれました。「政治の未来を米（アメリカ）・仏（フランス）から考える」と題して、ユキ・近藤・シャー氏（在福岡アメリカ領事館広報担当領事、福岡アメリカンセンター館長）とフランク・ボルジアニ氏（フランス政府公式機関アンスティチュ・フランセ九州 - 沖縄館長兼事務局長）がお話してくださいました。

アメリカでの女性議員増加のための市民団体の働きのお話はとても印象的でした。資金面での支援、候補者の訓練、若い女性の教育に力を注ぐ団体などの活動が、女性議員の増加という確かな実りをもたらしているそうです。

一方、フランスはパリテ法を制定し、制度を整えることによって、政治分野における女性の参画を拡大してきました。パイオニアの女性たちがあきらめずに努力し続けたことが大いに力になっていると感じました。

アメリカもフランスも、女性議員の割合では日本を大きく引き離していますが、お二人とも、それでもまだまだ道半ば、課題があるとおっしゃっていました。



今回は、対面参加が定員（150名）近く、zoom参加も60名ほどと多くの方が参加されました。ネットワークの力です。女性だけでなく、男性参加者も多かったことにも勇気づけられる講演会でした。大学女性協会福岡支部からは、対面で4名が参加しました。また、支部会員がお誘いした方々の参加もありました。

（守山恵子）

3月公開講演会

講演「人工知能は男性?女性?」
講師：相良かおる会員

日時：3月27日（日）14：00～16：00
場所：あいれふ
出席：会員4名

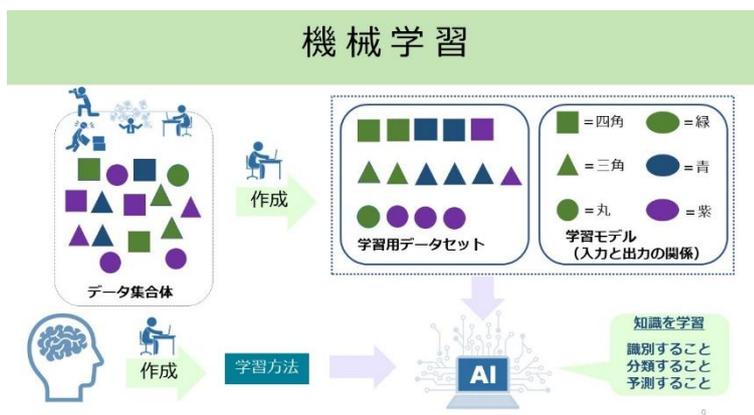
2021年度最後の福岡支部の公開講演会は3月末に久々に対面で開催しました。テーマは情報科学を専門とする相良かおる会員による「AIは男?女?」です。AIに無知、無関心な私にも、このタイトルは大いに刺激的で、興味をそそられました。AIは所謂機械で、無機質で、中性的なもの、という先入観を払拭するものでした。

人工知能AIは既に実社会の様々な場面に浸透しています。その”社会実装されたAI”の多様な実態が紹介された上で、AIが機械学習する過程で無意識的に或いは意識的、意図的にジェンダーが組み込まれ、バイアスがかかっていることに焦点が当てられました。例えば受付ロボットや音声アシスタントは概ね女性であり、知的専門職は男性である等、職業上の偏見や、更には人種差別なども組み込まれているということです。つまりAIは作る主体から用いるデータ、操作の過程まで、概ね“男社会”なのです。こうしたバイアスを認知し、隠れた意図を読み解き、低減していく対策を5項目にわたって最後に示唆されました。私達一人一人にボールは投げられたのです。

参加者は4人で少なかったものの、沢山の質問が簇出し、和やかな議論が展開しました。対面による例会の至福をしみじみと味わうことが出来た例会でした。

(加藤仁美)

人工知能（AI）の正式な定義は定まっていますが、一般的に「人間の知能を、コンピューターを用いて人工的に再現したもの」と認識されています。AIは人と同様に、学習（「機械学習」という）により知識を獲得します。この機械学習には、①学習用データ、②学習モデル（入力と出力の関係）、③学習方法が必要です。そしてAIロボットや電子看板などのAI製品を設計し、機械学習用の①～③を作成する技術者のほとんどが男性です。



また、学習用データは実社会にある差別や偏見などが含まれる膨大な量のデータから作成されます。

にも関わらず、AIの判断は「客観的」で「公平」だと認識されて導入されます。また、AIに不当な判断をされても、その説明責任を導入者に問うことは困難なのです。

(相良かおる)

◆◆ 2022 年度支部総会承認事項 ◆◆

今年度も支部総会を書面で行うこととし、福岡支部会員 21 名に福岡支部総会資料をお送りしました。その結果 14 名の承認書を得て、審議事項、① 2022 年度事業計画（案）、② 2022 年度予算（案）、③ 以下の 2022 年度役員は承認可決されました。

なお、青沼美撫子支部長の病気療養に伴い、2021 年限りで支部長をお引き受け頂いた守山恵子会員に替わって新支部長に萩尾恵子会員がご就任下さいました。

【2022 年度役員】

顧 問： 和栗方子、加藤仁美、青沼美撫子
支 部 長： 萩尾恵子
会 計： 桑原洋子
書 記： 相良かおる
会 報： 相良かおる
会計監査：西原そめ子

◆◆ 会員異動 ◆◆

退 会：井上洋子会員、篠崎正美会員、松浦愛子会員、村田三恵子会員、武谷恵美子会員

（一社）大学女性協会（JAUW：Japanese Association of University Women）

1946 年に創設され、1954 年に国際大学女性連盟（IFUW：1919 年創立）に加盟。

2012 年に一般社団法人となり、IFUW と協働しながら女性の地位向上を目指す、公益活動を行う非政府組織（NGO：Non-Government Organization）です。奨学金事業、女性リーダーの育成、国内外の諸問題に対する唱道活動など多様な事業を展開しています。

Web ページ： <http://www.jauw.org/>

会費

入会金 1,000 円（正会員のみ）
年会費 正会員 7,000 円（IFUW 年会費を含む）
賛助会員 3,000 円

福岡支部は、1947 年に設立され、支部会費は 2,000 円です。

国際大学女性連盟（IFUW：International Federation of University Women）

世界 61 カ国の大学卒業女性による 国際非営利、非政府団体です。

なお、2015 年 4 月より GWI（Graduate Women International）に名称変更しました。

本部はジュネーブにおかれ、3 年ごとに加盟国各国回り持ちで総会が開かれます。

以下の目的を達成するために、各国でさまざまな状況に応じて活発な活動を展開しています。また、国連諸機関に代表チームを派遣し、世界の重要な問題に対して直接発言をしています。

目的

1. 女性の生涯にわたる教育を推進する
2. 国際協力、友情、平和と人権を推進する
3. 女性の地位の向上を擁護し、支持する
4. 公的および私的な生活でのリーダーシップと意思決定において、女性がその知識と技術を活用することを奨励する



